



Title	編輯を終へて
Author(s)	山本, 檣信
Citation	懷徳. 1941, 19, p. 53-54
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/89081
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

て嚴島神社の國寶建築すべてに就て見學す。
歸途、尾之道市に下車して宿泊、十九日早朝
より淨土寺及び西國寺の國寶建築を見學す。
參加者は何れも復と獲難き好機會に恵まれた
るを喜びつゝ歸阪した。

▲九月六日

十七名參加し、高野山に抵る。總持院に宿泊
し、杉間より漏るゝ満月に詩囊を肥し、翌
日、天沼俊一先生の指導にて不動堂、經藏、
藥師堂、位牌堂、多寶塔など國寶建築全部を
見學す。

編輯を終へて

幹事 山本 檣 信

頑迷な抗日に已むなく破魔の劍を抜き放ちて
より茲に四年有餘、皇威は滿蘇國境より佛印の
南端に及び、武力に於て絶對壓倒的地位にある
我が國は、思想戰、經濟戰に於ても亦一層努力
して此の聖戰の目的を貫徹しなければならぬ。
而して今や昨秋勃發せる歐洲戰爭の影響にて、
太平洋の風波は愈々荒れ狂ふて居る。此の時に
當りて、平素より主張せらるゝ道義の信念を以
て屹然として立ち、五十年に垂んとする實生活
を基礎とし、經濟戰に於て其の必勝を期して挺
身奉公の誠を盡してゐられる。我が懷德堂理事
長小倉正恒先生が、藏相としての其の勇壯な姿

を龜鑑と仰ぎ、我々堂友も各々其の職域にあつて勤儉産を治め、義勇奉公の至誠を發揮し、以て八紘一字の天業を翼賛し奉る光榮を感謝しなければならぬ。

聖慮を安んじ奉らねばならぬ秋である。偏に堂友諸兄の健康と一層の奮闘とを祈る。

本堂重建以來茲に二十五星霜、本誌も亦諸先生の鞭撻と、堂友諸兄の援助とにより、幸ひにして號を重ねること十九、今回は學界の權威、秋月胤繼先生の「皇道と儒道」と題する講演、講師張源祥先生の入聲に關する研究、及び中井家の當主中井木菟麻呂先生の中井甕菴先生行狀を登載し、また吉田銳雄先生が編纂せられた本堂所藏の懷德堂先賢著述書目、及び甕菴先生遺稿を附録として刊行することゝなつた。熟讀玩味せられて修養に資せられんことを希望する。

今や時局はあらゆる艱難を突破進撃して、